

## 古墳壁画の保存活用に関する検討会（第2回）議事要旨

1. 日 時 平成22年5月24日（火）10：30～12：00
2. 場 所 文部科学省 東館 16F特別会議室
3. 出席者 （委員）  
永井座長、有賀副座長、梶谷、北田、木下、佐藤、里中、佐野、関、高鳥、成瀬、銚井、三浦、三村、和田の各委員  
（協力委員）  
石川、西藤、舟久保の各委員  
（事務局）  
文化庁：合田次長、関文化財部長、松村文化財鑑査官、栗原古墳壁画室長、串田記念物課長、建石古墳壁画対策調査官 ほか関係官  
独立行政法人国立文化財機構：  
東京文化財研究所 北出研究支援推進部長、石崎保存修復科学センター長、川野邊副センター長 ほか関係者  
奈良文化財研究所 多研究支援推進部長、高妻埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長 ほか関係者

## 4. 概 要

- (1) 開会
- (2) 委員及び出席者紹介
- (3) 議事

## ①キトラ古墳の保存・活用について

キトラ古墳壁画の保存管理施設について、事務局から資料2-1、2-2、2-3、参考資料1に基づき説明が行われ、以下のとおり意見交換等が行われた。

関 委員：古墳は墓でもあり、地域住民にとっては、高松塚古墳やキトラ古墳がそこにあることが、心の拠り所であるという意識が大変強い。保存活用の方法はいろいろあると思うが、地域全体での管理ということも踏まえて考えていただきたい。

舟久保委員：国営飛鳥歴史公園のキトラ古墳周辺地区は、環境保全機能とあわせて歴史文化の体験学習機能を担うという位置づけとしている。公園内で壁画本体を保存公開していくことは、この体験学習機能を発揮していく上で非常に有意義であると考えている。国交省の方でもこの機能を公園内でどのように展開していくか検討を始めているところであるが、壁画の保存管理は文化庁が主体となって行うということなので、文化庁とも十分な連携を図りながら検討を進めたいと考えている。

佐藤委員：キトラ古墳壁画については、保存のための調査や処理は必要ない段階まで来ているのか。それとも、これからもいい状況を維持するためにある種の仕事がずっと必要になるのか。

串田記念物課長：キトラ古墳壁画については、絵が描かれている主要部分の取

り外しが終わり、現在は、余白部分の取り外しを行っている。取り外しが終わったものについては、石材単位を目安としながら、壁面として再構成することとしており、当然、その段階では壁画にカビが生えないような十分な保存処理を行った上で展示公開していくということが、先の検討会でも確認されているところである。

佐藤委員：まずは保存が一番大事であるので、そのためには、全ての保存処理が終わってから活用するというのではなく、常に保存のための調査や研究をしながら活用も視野に入れることを考える必要がある。この施設は、管理や活用だけではなく、全国あるいは世界の古墳壁画の調査研究をリードしていくような施設になってほしい。

和田委員：この施設が、明日香村全体の中で、他のものと有機的につながっていくためには、古墳周辺の整備の仕方も関係してくるので、国交省と文化庁の意思疎通が円滑に行われて、両者が有機的にうまく回転していくようなシステム作りも提案してほしい。

佐野委員：壁画そのものの公開も大切だが、壁画の修理やメンテナンスといった、保存していくための様々な過程が段階的に見えるような公開施設であってほしい。

木下委員：全体としてこの保存管理施設の素案は十分目配りされていると思う。本物の展示期間が限定されるのであれば、それ以外の期間は研究活動そのものを展示していくということも考えられる。また、飛鳥の歴史展示は、既存の諸施設の機能も含めて、役割分担と有機的関係をどうしていくかという検討も必要になる。

里中委員：国の義務として国民に壁画の実物を見せなければならないというプレッシャーがあるのではないか。我が国の気象条件でこのような壁画が残ったことは奇跡的なことであり、この残されたものを国としてどう後世に伝えていくかということを考えなければならない。実物を見れば確かに重みがあって感動するが、劣化のリスクを考えると、実物は学術的研究の対象にゆだねて、展示公開は複製を活用していくほうがよい。できれば、大切に守っていくべき実物と、発見当時の感動が伝わるような複製と、さらに創建当時の再現物の3つがセットになって、公開活用するのは複製や再現物とするのが一番よいと思う。複製や再現物であれば、体験学習で見せたり自由にさわったりもでき、地域の観光の活性化にも活かしていけるのではないか。修理や保存には予算が付きやすいが、再現物を作るということも視野に入れて進めてほしい。また、中国の古墳壁画に比べると、キトラ古墳壁画は緻密さに満ちているし、壁画の保存についても、その丁寧さや保存技術は感動することが多いので、世界にアピールすることも考えて進めてほしい。

意見交換の末、キトラ古墳壁画の保存管理場所については、国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区の中を念頭に、具体的な施設については、文化庁において国交省等の関係機関と調整を図りながら進めていくこととされた。

## ②高松塚古墳の保存・活用について

テラヘルツ分光イメージングの技術解説と高松塚古墳壁画への適応事例について

て、高妻奈良文化財研究所保存修復科学研究室長から資料3に基づき説明があり、技術的な点に関する質疑応答があった。

また、壁画材料に対する紫外線照射の影響に関する実験結果について、川野辺東京文化財研究所保存修復科学センター副センター長から、資料4に基づき説明があった。技術的な点に関する質疑応答の末、さらなる追加実験の結果に基づき、将来的に高松塚古墳壁画を対象とした紫外線照射を従来法によるクリーニングと組み合わせることについて、引き続き検討することとされた。

(4) その他

事務局より、国宝高松塚古墳壁画修理作業室の一般公開の結果について報告された。

(5) 閉会

以 上